

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

【か】よく考え 【な】なかよく 【が】がんばる 【わ】わたしたちかになっ子  
 【か】自らすすんで問題を見つけ、よく考えて判断して行動し、豊かに表現できる子どもを育てます。(知)  
 【な】自分や他者のよさを認め合い、個性を發揮しながら他者と豊かにかかわり合う子どもを育てます。(徳)  
 【が】自分の心と体に関心をもち、すすんで健康保持に努めるとともに、体力の向上を目指す子どもを育てます。(体)  
 【わ】自分が住む神奈川の「まち」について理解を深め、「まち」とともに育ち「まち」に貢献する子どもを育てます。(公)  
 多様な文化やひとの存在を理解し、視野を広げて共によりよく生きようとする子どもを育てます。(開)

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自己決定力  
かかわり合う力  
健やかな心とからだ

#### 具体化した資質・能力

創造する・つなげる・試行錯誤する・見通す  
伝え合う・折り合いをつける・相手を思いやる  
粘り強さ・心と体のたくましさ  
やってみる・自他のよさを認める・視野を広げる

#### 中期取組目標

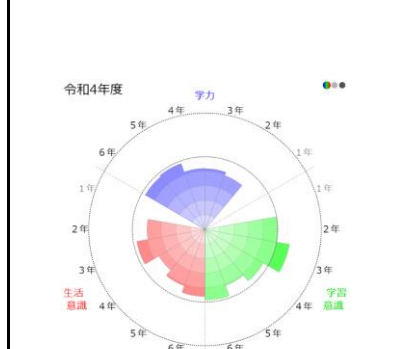
○自らすすんで問題を見つけ、よく考えて行動する子どもを育てます。  
 ・1年目は、子どもの自己決定を保障する取組を継続的に行うことで、主体的に学ぶ姿勢を身に付けられるようにします。  
 ・2年目は、子ども同士がかかわる場を設定し、対話的で協働的な学びの実現を目指します。  
 ・3年目は、伝え合うことで自分の考えを深められたり広げられたりすることを実感できるようにします。  
 ○他者と豊かにかかわり合う子どもを育てます。  
 ・3年間を通して、幼・保・小・中学校、家庭、地域と連携し、人とかかわる活動を重視します。それぞれの子どもの違いやよさを認め合うことを通して子どもの自己肯定感を高めていきます。

### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きて働く知	①子ども同士で関わる場を充実させ、対話的で協働的な学びの実現を目指す。 ②学年やブロックで評価規準や評価計画を確認しながら、授業づくりを行う。また、授業改善に評価を生かせるようにする。 ③授業研究を積み重ねることで深めているような重点研を目指し、より子どもが問題解決を進んで取り組める授業づくりをする。
担当	教育課程・研究推進

#### 学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる子どもの実態  
 学力は市の平均を下回っているが、昨年度ほどの学年間の格差は縮まった。学年が上がるにつれ、伸びも見られ、積み重ねた生活意識、学習意識とも学年が上がるにつれて下がる傾向があったが、平均に及ばずとも意識の高さを維持できるようになった。



(2) これまでの学校の取組状況  
 ・学習の場だけでなく、人との関わりや交流を充実させた活動を取り入れることができた。  
 ・評価研修を行い、学習評価をもとに授業改善を図るため、学年やブロックで評価について確認できる機会をもつようになった。  
 ・授業研究を行うことで、算数科を軸に子ども自ら問題解決を図れる授業づくりを目指すことができた。

#### 今年度の目標

見方・考え方を働かせて協働的に学ぶ子の育成

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

**上半期**  
 ・重点研究で算数科を軸に「数学的な見方・考え方を働かせて協働的に学ぶ子」を目指して授業研を行い、本単元・本時で子ども達に働かせてほしい見方が何かについて研究を深めていく。  
 ・学習状況調査の結果をもとに、各学年の状況に応じた学習計画を立てる。  
 ・教科や単元ごとに目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。  
 ・友達と対話したり協働的に学び合えるような場をもてるような学習計画を立てる。  
 ・学年で評価規準や評価計画の確認をし、授業改善に生かす。  
 ・朝の時間を有効活用し、基礎基本の定着を図る。  
 ・家庭学習を基礎基本の定着を図れるものと、子どもが選択できるような内容とに取り組み、学力向上を図るとともに、主体的に学習に取り組める姿勢を育成する。

**下半期**  
 ・重点研究で算数科を軸に「数学的な見方・考え方を働かせて協働的に学ぶ子」を目指して授業研を行い、本単元・本時で子ども達に働かせてほしい見方が何かについて引き続き研究を深めていく。  
 ・研究で学んだことを日々の授業に汎用できるようにする。  
 ・各学年の前期の学習状況を分析し、それぞれの力に応じた学習計画を立てる。  
 ・教科や単元ごとに目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。  
 ・友達と対話したり協働的に学び合えるような場をもてるような学習計画を立てる。  
 ・学年で評価規準をもとに学習評価の計画を立て、授業改善に生かす。  
 ・朝の時間や家庭学習を有効活用し、基礎基本の定着を図る。  
 ・家庭学習を子どもが選択できるような内容を増やしていき、主体的に学習に取り組める姿勢や自己決定力を育成する。

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①学年目標に人権的視点を盛り込むようにする。その目標に合わせたYPプログラムを実施できるようにする。②挨拶が増えるような働きかけを継続して行う。年間を通して意識できるように、児童会活動を行ったり、児童指導部で検討したりして各学級から継続的に指導できるようにしていく。③ベア学年活動の年間計画を立て、さらに充実させていく。
担当	特別支援・児童指導・人権

#### 豊かな心に関わる本校の状況

○人権掲示板を設置し、学校教育目標に基づいた学年・学級目標の中で、人権的意識に関わる部分が見えるように掲示した。また、人権週間には全校で振り返りを行い、掲示することで、学年の段階合わせた人権の目標を意識する機会となった。  
 ○YPアセスメントを活用し、各学級でYPプログラムができるよう、呼びかけ・研修を行った。  
 ○校内での挨拶は増えてきているが、朝の挨拶や地域の方への挨拶がなかなかできないことが課題である。  
 ○新型コロナウイルスによる制限は徐々に緩和され、他学年との交流や、地域の方と関わった学習も徐々に増えてきている。ベア学年での活動は、学年により活動回数にはばらつきがあり、愛着や相手意識をもって活動できた学年もあったが、さらに継続的に活動できるようにしていきたい。

#### 今年度の目標

関わり合うよさに気づき、相手のことを考えて自分から関わろうとする子を育てる。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

**上半期**  
 ・学校教育目標に基づき、人権的視点をもった学年目標を立て、校内で掲示する。  
 ・折を見て目標の振り返りを行い、よい姿を価値づける。  
 ・ベア学年活動は年間計画を立て、継続して関わりをもてるようにする。  
 ・あいさつをすることの意味や大切さを意識し、自分からあいさつができるように指導する。  
 ・行事や生活科・総合的な学習、各教科の学習を関連させて道徳の授業を行う。  
 ・YPプログラムに計画的に取り組めるよう、年間計画を立て、見直しをもてるようにする。  
 ・メンター研修でYPプログラムを取り上げる。  
 ・いじめの未然防止につながるYPプログラムを、全学級で行い、子どもたちが課題意識をもてるようにする。

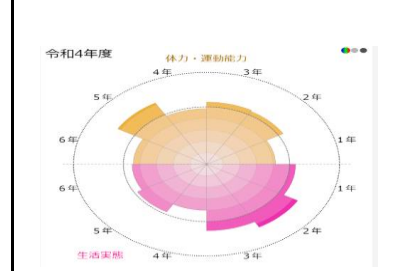
**下半期**  
 ・学年目標の振り返りや見直しを行う。  
 ・折を見て振り返りを行い、よい姿を価値づける。  
 ・年間計画に沿って、継続してベア学年活動を行う。下学年からも集会の企画などを行えるとよい。  
 ・あいさつが自分からできるよう、継続的に指導する。  
 ・行事や生活科・総合的な学習、各教科の学習を関連させて道徳の授業を行う。  
 ・人権週間の取組を通して、人権について考える機会をもつ。  
 ・いじめの未然防止について、横浜子ども会議で話し合われたことを、校内に広げていく。

### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①「レッツ体力アップ」では、前期「短縄」後期「持久走」の2種目に絞って、持久力の向上を目指していく。同じ種目を継続的に行うことで、自分のめあてに向かって「できた」という達成感を味わえるような取り組みを目指す。 ②「自ら考え行動できる学校」を目指して、保健委員会を中心に全校で健康、安全について取り組みを深めていく。
担当	体育部・学校保健

#### 健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童の実態  
 ○令和4年度の新たな力テストの結果では、令和3年度に引き続き「スポーツをすることが好き」と答えている児童が横浜市平均より高く、「授業以外でも時間をもちたい」や「運動をすつすつきりした気持ちになれる」「運動は友達や仲間と一緒に活動できる」と回答している児童が多いことが示された。  
 ○同テスト結果より、測定種目のほとんどで横浜市平均を下回っている実態があり、特に反復横跳び、20mシャトルランは他の項目と比較しても低いことがわかった。



(2) これまでの本校での取り組み  
 ○「レッツ体力アップ」の中で、短縄、長縄、持久走に取り組んだ。短縄や持久走では、自分のめあてに向かって活動を行う姿が見られた。長縄では、子ども同士で声を掛け合い楽しんで取り組んでいる姿が見られ、年間を通して体を動かすことや仲間と一緒に運動することを楽しむ姿が見られた。一方で、短縄で種目が変わるため継続性がないことや長縄の動きが体力の向上に繋がりにくいことが課題であった。結果を基に、種目を選定して取り組みを改善していきたい。

#### 今年度の目標

○「レッツ体力アップ」を通して、持久力を高め、進んで運動に親しむ態度を育成する。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

**上半期**  
 ○上半期の「レッツ体力アップ」では、「短縄」を実践していく。3分間継続して跳び続けることを目標に挑戦する。個人で目標を立てて取り組みを行い、自分の体力に合わせて1分、2分・と記録が伸びていくようにする。またベア学年で取り組むことで、個人の持久力の向上と同時に、運動習慣の定着、仲間と一緒に活動できる楽しさや達成感を得られるようにする。さらに、運営委員会の児童が中心となって行う。全校児童が主体的に取り組んでいけるように委員会の児童が全校に呼びかけをする。さらに、ベア学年で行うことで、参加意欲を高め、より運動に親しめる機会を増やしていく。  
 ○学校保健委員会では、校内の課題を発見し、その課題に対し、どのように取り組んでいくのかを明確にする。  
 ○食育指導では、生活リズムが整うように、起床時刻の見直しや、朝食の重要性に気付けるよう呼びかけていく。  
 ○夏休みには、「歯磨きカレンダー」と「早寝、早起き、朝ご飯」カードを作成し、生活習慣を確立させていく。

**下半期**  
 ○下半期の「レッツ体力アップ」では、「持久走」を実践していく。2つのコース(ぐるぐるコース・こつこつコース)に分かれ、自らの体力に合ったコースを選択し、持久力の向上を目指していく。各学年で実施し、仲間と教え合ったり励まし合ったりすることができる関係を築き、運動に親しむ態度を育成していく。また、「できた」「もっとやりたい」という達成感を味わうために、レッツ体力アップで使用するカードには毎時間振り返りを行い、どのくらい走ったかを色を塗って可視化できる。普段の体育学習の中でも振り返りの時間を充実させ、次につながる学びを見つけることができるよう、教師の指導力向上を図っていく。